



十勝管内鹿追町は、大昔の火山活動でつくられた然別湖や山々があり、町全域が地球や大地の成り立ちを学べる日本ジオパーク「とかち鹿追ジオパーク」に認定されています。こども記者2人が8月上旬、とかち鹿追ジオパークで、岩の隙間から夏でも冷たい空気をふき出す風穴を取材しました。(藤本理佳)

風穴 地下の氷ですずしく



上 風穴のある場所の前で金森さん(右はし)から説明を聞くこども記者
下 風穴に手をかざす橋詰さん(右)と小島さん
(いずれも金本綾子さつえい)



こども記者見ぶん録

夏も解けきらず 4千年前のものも

帯広市・帯広小5年の小島彩愛さんと中札内村・中札内小5年の橋詰悠翔さん。町ジオパーク推進課の環境科学専門員の金森晶作さん(46)が案内してくれました。

まず、とかち鹿追ジオパークビジターセンターで鹿追の地形の特徴を学習。然別湖方面に車で約15分走ると、ゴロゴロした岩が積み重なり、直径数センチほどの小さい穴がいくつも開いた然別風穴地帯に着きました。

「冷たい!」。2人が岩の隙間に手をのばすと、ひんやりした風を感じます。温度計で測ると5・5度でした。胸あたりの気温は21度。風穴の近くは、かなりすずしいと分かりました。

すずしさの理由は地下にできた氷で、解けながら冷たい風を出し、積み重なり、然別風穴地帯の最も深い所には約4千年前の氷があるみたいです。小島さんが「風穴はどんな場所にできやすいのですか」と聞くと、金森さんは「地下に岩がくつくるトンネルがあるような所です」と答えました。

「ゴロゴロした岩は火山の噴火で出た溶岩がくずれたもので、岩と岩の隙間がトンネルのようにつながっています。冬に冷たい空気がトンネルにたまり、春には雪解け水が流れこみ氷ができます。

氷は秋になっても全ては解けず、積み重なり、然別風穴地帯の最も深い所には約4千年前の氷があるみたいです。小島さんが「風穴はどんな場所にできやすいのですか」と聞くと、金森さんは「地下に岩がくつくるトンネルがあるような所です」と答えました。

と分かっています。橋詰さんは「どうして夏の間も全部の氷は解けないのですか」と質問。金森さんは「氷は日光が届かない深い所にあるのと、岩の上には生えているふわふわのミズゴケが熱を伝わりにくくするからです」と説明しました。

この日は姿が見えませんでした。風穴地帯にはナキウサギが生息しています。しかし気候変動で、ナキウサギがすむすずしい環境が失われてしまうかもしれません。

鹿追町は道内でもめずらしく、二酸化炭素を出さない水素燃料電池車を使っています。2人が乗ったのも、その車でした。金森さんは「鹿追町は、みんながまねしてくれたら地球温暖化を防げるのでは」と、できることをやってみようとしています」と話しました。

ジオパーク 貴重な地形や地質を保存し、教育や観光に役立てる自然公園。「ジオ」は地球や大地、「パーク」は公園の意味です。

専門家でつくる日本ジオパーク委員会が認めた日本ジオパークは9月1日現在、とかち鹿追、アポイ岳(日高管内様似町)、洞爺湖有珠山(伊達市など)、白滝(オホーツク管内遠軽町)、三笠(三笠市)、十勝岳(上川管内上富良野町、美瑛町)の道内6地域をふくめ、全国に47地域あります。

国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界ジオパークは国内10地域、道内は日本ジオパークでもある洞爺湖有珠山とアポイ岳が選ばれています。



ナキウサギ 生態分かった

橋詰 悠翔さん

十勝管内中札内村・中札内小5年

鹿追ジオパークに行き、環境科学専門員の人に風穴やナキウサギ、火山などについて教えてもらいました。風穴とは地下に氷があり、そこから冷たい風がふく穴だと分かりました。

ナキウサギについて分かったのは、標高が高く岩がゴロゴロした場所に生息していることです。どうしてナキウサギは、そうした場所にしかすまないのか疑問に思ったので、専門員の人に聞くと「ワシやキツネなどの動物に食べられないため」と答えてくれました。

今日一日を通して、鹿追ジオパークについて、たくさん知ることができました。



何が出てくるか ワクワク

小島 彩愛さん

帯広市・帯広小5年

私が印象に残ったのは、氷の中から数千年前の葉っぱが見つかったという話です。つまり、この氷は数千年前から解けていないということで、そんなに長い間、解けないんだなと、とてもおどろきました。

どうして氷が解けないかというと、冬にトンネル内部に冷たい空気が入ります。そこに雪解け水が流れこみ、この氷は作られます。そこは直接日光が当たらないため、秋になっても完全に解けないそうです。

氷をさらに調べると、また新たな発見があるかもしれないので、そう考えると何が出てくるかワクワクします。